

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発現 状況	② 自然 環境 等 の 変化	③ 施設 の 維持 管理 状況	④ 地域 住民 等 の 評価	⑤ 地域 社会 へ の 貢 献 状況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び各種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
1	地すべり 防止	北安曇郡 小谷村	おおたいら 大平	山腹の拡大崩壊防 止や地すべり防止 工事により保全対 象の安全を確保す る。	山腹工 27.00ha 集水井 17基 土留工 8基ほか	H11～H27	1,000,000	1.2	C	A	B	A	A	①事業により、大規模地すべり発生の危険性が低減し、村道の安全が確保された。また、崩壊斜面の緑化により、里山としての景観回復に寄与した。 ②崩壊斜面の緑化工事により自然環境が改善された。 ③長野県が定期的に点検管理を行うほか、委託調査により継続観測を行っている。 ④保全対象の村道は重要な観光資源である紙すき牧場への唯一の路線であるため、対策を引き続き実施して欲しいとの意見があった。 ⑤紙すき牧場の運用に貢献している。	○地すべり対策は一般的に多大な事業費と長期間を要する。県民の安全・安心なくらしを確保するために、引き続き迅速・効率的な事業実施を行う。 ○本事業地は、第1期工事の完成により当面の安定が確保されたが、当初全体計画上の集水井9基を残しており、必要に応じて第2期工事の着手を判断するためにも、県単事業等により地下水位・地中の歪等を通年で観測し続ける必要がある。 ○事業実施中に直近の保全対象である大平地区の住民が不在となった。集落の衰退は全県的な問題であるため、今後とも計画に当たっては保全対象・事業区域を精査する必要がある。	森林づくり推進課
					山腹工 24.60ha 集水井 8基 土留工 8基ほか	H11～H21	1,064,668	1.1								
2	急傾斜地 崩壊対策 等	上松町	きんじよ 近所	地域住民の安全の確保のため急傾斜地崩壊対策工事を実施して民生の安定、保全を図る。	擁壁工 L=500m 木柵工 A=800㎡	H16～H19	200,000	8.4	B	A	A	A	B	①急傾斜地崩壊対策施設整備により、地域の安全確保と土砂災害に対する地域住民の意識の向上、災害に強い地域づくりを推進した。 ②自然環境との調和が図られている。 ③維持管理に地域の人たちの参加があり、施設は健全に保たれている。 ④事業に対する高い評価をいただいている。 ⑤斜面対策を行うことで災害に強い地域づくりに貢献している。	○近年、集中豪雨による土砂災害が多発する中、同事業の必要性が、住民から認知されている。 ○今後も災害に強い地域づくり推進するため、施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達方法の確立、避難方法・経路の確認といったソフト対策の充実を図り、ハード・ソフト両面から土砂災害対策を進める必要がある。	砂防課
					擁壁工 L=374m 法枠工 A=1504㎡ 落石防止柵工 L=435m	H16～H21	391,301	4.2								

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発現 状 況	② 自然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	⑤ 地 域 社 会 へ の 貢 献 状 況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
3	県営ため池等整備事業	富士見町	たき 滝の沢	農業用水の安定供給、災害防止、並びに維持管理労力の軽減のため、老朽化したため池の改修を行い、農業の安定生産の向上と農村環境の保全を図る。	堤体工 L=80m 波除護岸工 L=95m 取水施設工 N=1箇所 余水吐工 N=1箇所	H18~H20	75,000	1.11	A	B	A	A	B	①堤体や余水吐等の改修により、用水の安定供給とため池の安全性が確保され、維持管理労力も軽減された。 ②主に農閑期に工事を行い、営農の中断がなかった。 ③草刈りは、非農家を含む区民全員で行っている。 ④ため池の必要性・重要性から、評価は高い。 ⑤防火用水としての利用が可能である。	○本ため池は地域農業にとって不可欠であるため、事業完了後は適正な維持管理を行い、持続的な農業を推進する上での重要な施設として保全を図っていく。 ○ため池の改修に当たっては、地域住民の憩いの場となっているケースもあるため、自然環境との調和や安全性の確保を考慮するなど、状況に応じた計画とする必要がある。	農地整備課
					堤体工 L=80m 波除護岸工 L=95m 取水施設工 N=1箇所 余水吐工 N=1箇所	H18~H21	82,000	1.02								
4	山地治山	須坂市	からさわ 辛沢	○被災した荒廃溪流の不安定土砂を固定し、流路を安定させることにより、下流保全対象の集落を保全する。	流路工(ブロック積) L=400m	H17~H20	119,500	3.9	B	B	A	B	A	①堆積土石等が安定化され、流出がなくなった。 ②土砂流出等により農地や道路の利用に悪影響を及ぼすことはなくなったが、構造物の施工により周辺生物の生育環境が一部分断された。 ③長野県が定期点検を実施しており、地域の参加もあった。 ⑤工事完了により、市の指定天然記念物を有する神社や県史跡を安心して訪れることが出来るようになった。	○他所管工事と情報交換し、連携を行った。 ○平成25年度~26年度に、長野県内の民有林全域で航空レーザ測量を実施した。崩壊跡地、地すべり地形などの山地災害危険度の高い箇所や、既存治山施設の位置、土砂堆積状況などが把握可能となるため、測量結果を解析し、災害に強い森林づくりを進める。	森林づくり推進課
					流路工(ブロック積) L=336m 森林整備 1.64ha	H17~H21	127,869	3.7								

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の発現 状況	② 自然 環境 等 の 変化	③ 施設 の 維持 管理 状況	④ 地域 住民 等 の 評価	⑤ 地域 社会 へ の 貢 献 状 況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
5	水源地域 等保安林 整備	上田市	たろうやま 太郎山	①山火事跡地の森林整備による水源対策及び土砂流出防止 ②山腹崩壊地の復旧による人家及び高速道路等の保全	山腹工 0.23ha 土留工 8個 ほか 森林整備 100ha	H19~H21	115,100	6.2	B	A	B	B	A	①崩壊地及び山火事跡地の復旧により、保全対象の安全が確保され、水源かん養機能及び土砂流出防備機能等が維持されている。また、完了後に新たな崩壊等は発生していない。 ②山腹土砂の固定と新たな崩壊地の発生抑制により、清涼な水環境の維持増進に寄与すると共に、自然環境の向上に貢献した。 ③長野県が定期的に点検管理を行っており、設置施設に異常は認められない。 ④「上田市民のふるさとの山」として親しまれ年間15,000人以上が登っている太郎山の登山道へ至る林道を保全することが出来た。	○平成25年度～26年度に、長野県内の民有林全域で航空レーザー測量を実施した。崩壊跡地、地すべり地形などの山地災害危険度の高い箇所や、既存治山施設の位置、土砂堆積状況などが把握可能となるため、測量結果を解析し、災害に強い森林づくりを進める。	森林づくり推進課
					山腹工 0.75ha 土留工 10個 落石固定工 2,330㎡ほか 森林整備 30ha	H19~H21	129,400	5.8								
6	広域河川 改修	大田市	ししお 白塩	昭和58年9月の台風10号による豪雨において浸水被害が発生したこと、また、沿川は宅地化が進んでいることから、当事業区間における浸水被害の解消を図るため、10年に一度の降雨に対する治水安全度を確保し、75～90m3の流下能力を持つ河川断面へ改修することとした。	護岸工 L=1,400m	H63~H20	2,180,000	—	A	A	A	A	A	①流下能力の向上により、流域住民の安全・安心が向上し、河川環境の改善が図られた。 ②自然に配慮した工法により、生物の環境が改善され、親水性が向上した。 ③河川管理者の維持管理に加え、地域住民による環境整備が継続的に行われている。 ④住民活動に高い満足感はあるが、高齢化等により活動に負担を感じている。 ⑤公園整備や植栽がされ、河川が散策路となっている他、憩いや学習の場として活用されている。	○各河川の状況を十分把握した上で、環境に配慮した河川整備を行う必要がある。 ○関係者との意見交換や学識者からのアドバイスなど、幅広く知識を得ることが必要である。 ○河川の適正な維持管理を持続的に行っていくため、行政、地域、企業、市民団体等の連携を検討していく必要がある。	河川課
					護岸工 L=1,400m	S63~H21	1,882,000	4.4								

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の発現 状況	② 自然 環境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	⑤ 地 域 社 会 へ の 貢 献 状 況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び各種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
7	道路改築 事業	中川村～ 大鹿村	たきざわ 滝沢	<p>主要地方道 松川 インター大鹿線は、 中央道と国道152 号を繋ぐ主要幹線 道路であり、第二次 緊急輸送路に指定 されている重要な 路線である。 そのうち、中川村 から大鹿村間の滝 沢では、落石による 通行規制が度々発 生しており、その解 消が急務となっている。 このため、落石危 険箇所を迂回するト ンネル工事を行い、 通行の安全確保を 図ることを目的と している。</p>	<p>全体 L=1.260m W=6.0(7.0～8.0)m トンネル L=958m 橋梁拡幅 L=141m</p>	H18～H 21	3,100,000	1.9	A	A	A	A	A	<p>① 落石危険箇所(4箇所)の解消により通行止め の発生がなく、事業目的を達成している。 ② トンネル工を採用し、既存地形の改変を最小限 に留められている。 ③ 点検、パトロールにより施設の維持管理に努め ている。また、地域住民により自主的な道路維持活 動が行われている。 ④ 地域から、安全及び円滑な通行が可能になった 点が特に高く評価されている。 ⑤ 観光のアクセス道路として観光産業の支援に寄 与している。</p>	<p>○完成から5年経過しているが施設が良好に維持さ れている。今後も施設点検等により適切に維持管理 を行う。 ○本事業は、落石危険箇所を迂回するトンネル工 事による通行の安全確保に加え、時間短縮効果が 高く、地域住民等の評価も得られている。今後も同 様な落石危険箇所の対策や山間部の道路拡幅に おける工法選択の参考としたい。</p>	道路建設課
				<p>全体 L=1.260m W=6.0(7.0～8.0)m トンネル L=958m 橋梁拡幅 L=141m</p>	H18～H 21	2,213,721	2.6									
8	補完的な 道路	茅野市	えいめい 永明	<p>JR中央本線茅野駅 東口地区及び西口 地区の都市再生事 業(土地区画整理 事業)による面整備 と併せて、茅野駅と 主要幹線道路の国 道20号及び中央自 動車道諏訪IC等を 接続する本路線の 整備を行い、中心 市街地の再生及び 活性化を図る。</p>	<p>道路築造工 L=802m W=6.0(16.0～17.0)m 仲町通線 L=428m、W=17.0m 大年線 L=374m、W=16.0m</p>	H12～H19	3,900,000	1.5	B	A	A	B	B	<p>①(直接的効果)歩道と車道の分離により、安全な歩 行空間が確保されるとともに、道路拡幅等整備によ り、円滑な車両交通の確保ができた。 (間接的効果)お祭り等地区の行事の際は、改良さ れた道路を使用し歩行者天国にするなど、広いス ペースを有効に使うことができた。 ②植樹帯の設置により、都市緑化が図られ、沿道環 境を整備することができた。電線の地中化により、 良好な沿道景観を創出するとともに、防災機能の強 化がはかられた。 ③植樹帯の管理については、地域企業とアダプトプ ログラムを締結。また、街路灯の維持については茅 野市が管理し、電気料金については地元商業会が 負担している。 ④整備区間は、通学路であり、道路拡幅に併せて 歩道が整備されたことによって、安全かつ快適に歩 行することが出来るようになった。また、御柱等のイ ベントの際にも有効活用できる空間となり、地域の 活性化を取り戻せると思われる。 ⑤沿道の地区計画により、良好な景観の形成が図 られている。区画整理事業により、狭小宅地が改善 され、防災及び居住環境が向上した。</p>	<p>○駅前地域の更なる円滑な交通及び安全な歩行空 間を確保するために、上川橋線の先線について、事 業化を図っている。 ○面的整備である土地区画整理事業と併せて事業 化することで、快適な都市空間の構築が出来るた め、土地区画整備事業等の都市基盤整備と併せた 事業の実施が重要である。</p>	都市・まちづくり課
				<p>道路築造工 L=1,048m W=6.0(12.0～17.0)m 仲町通線 L=360m、W=17.0m 大年線 L=374m、W=16.0m 上川橋線 L=314m、W=12.0m</p>	H12～H23	5,635,580	1.5									

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発 現 状 況	② 自然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	⑤ 地 域 社 会 へ の 貢 献 状 況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
9	雪寒対策 道路	白馬村	はくばえきまえ 白馬駅前	既設無散水消雪施設を更新することにより、安全で円滑な冬期交通を確保する。	無散水消雪施設更新工 L=615m W=6.0(16.0)m	H20~H23	300,000	—	B	A	B	A	B	①無散水消雪パイプ等を更新することにより、施設の寿命が伸び、効率的な融雪効果が図られ、冬期間安全に通行ができるようになった。 また、車道を融雪することにより、除雪した場合に生じる雪の塊が無いことにより、道路上の視界が広がり、国道への出入りに対する交通安全が図られる。 ②地域住民が安心して暮らせるようになった。 ③施設は、長野県が管理しており、定期的な点検を行っている。 ④地域住民への聞き取りの結果、概ね必要な工事であると回答。 ⑤観光の面で貢献している。	○無散水消雪施設の定期的な維持管理(消雪パイプの漏水対策等)を実施するとともに、路面の維持管理も定期的に行い、施設の寿命をできる限り延ばすことが必要。 ○長期にわたる通行止めが必要となるため工事に対する苦情も多い、事前に必要性の周知、事業のPRを行っていく必要がある。	道路管理課
				無散水消雪施設更新工 L=615m W=6.0(16.0)m	H20~H23	370,997	—									
10	交通安全	中野市	(国)403号 ひがしえべ 東江部	市街地に隣接し宅地化が進む地域において、幹線道路である国道403号に歩道が未整備であり、通学通勤の歩行者等の安全が確保が課題となっており、歩道を整備した。	歩道整備 L=1,100m W=2.5m	H15~H21	440,000	—	A	A	A	A	A	①未整備区間の歩道が繋がることで、歩行者等が安全に通行できるようになった。交差点や線形の改良、車道幅員の確保により安全が向上した。 ②通学・通勤のほか、ショッピングや散歩など、生活環境において利便性が高まった。 ③歩行者・用水路等の占用施設があるため、大勢の人による維持管理が可能。 ④安全な歩道が整備され利用が増えている。 ⑤沿道の歴史的遺産「山田家」について、関係者で「(仮称)山田家資料館」としての整備を前提に歩道計画を見直し、目的が達成された。	○地域の文化財については、地域の発展・まちづくりを踏まえ文化財の保全や利用促進に向け、関係者と十分協議していく必要がある。 ○整備が遅れている地区の道路関連事業においては、沿線の地権者の用地交渉が難航するが、粘り強く真摯な対応が必要。	道路管理課
				歩道整備 L=1,100m W=2.5m	H15~H23	540,569	—									

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発 現 状 況	② 自 然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	⑤ 地 域 社 会 へ の 貢 献 状 況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
11	県営かんがい排水事業	飯綱町	さみず 三水	旧三水村の村名の由来になっている芋川、倉井、普光寺の三用水のほか、日影、曾峰の各用水は土水路のため漏水が多く農業生産に支障をきたしている。また、土砂崩落が頻発し、維持管理に多大な労力を費やしている。このため、水路改修を行い用水不足の解消と併せ環境保全及び地域生活用水としての機能増進を図る。	用水路工 L=11,300m	H11~H17	1,850,000	1.05	A	B	A	A	A	①改修で漏水防止が図られたことにより、末端まで用水が行き届くようになり用水不足が解消された。 ②ホタル生息区間は、生態系に配慮した工法を採用し、激減していたホタルが復活するなど環境保全が図られている。 また、防火用水など地域用水としての機能増進も図られ、安心・安全な生活環境に寄与している。 ③毎年行われている堰ざらいや通常管理の草刈りは、安全で効率的となり適切な管理が行われている。 ④環境配慮や維持管理の著しい効率化など事業効果に対する評価は高い。 ⑤生態系に配慮した改修にあたっては、有識者、住民、小中学生参加によるホタル保護活動を行い、地域資源の再認識、教育の場となった。	○本事業により、三水地域の基幹用水路の改修はほぼ完了した。今後は、本事業以前に実施した改修箇所の老朽化が進行しているため機能診断を実施し、適期に補修を行い施設の長寿命化等によるライフサイクルコストの低減を図る必要がある。 ○長野県においては本地区と同様に山腹水路が多いため、整備されていない水路、老朽化した水路においては、安定的な用水確保と災害防止の面から適切な維持管理が不可欠となっていることから、適期に改修を行うなど効率的に保全していく必要がある。	農地整備課
					用水路工 L=11,290m	H11~H21	1,673,200	1.12								
12	県営中山間総合整備事業	飯山市 中野市 (豊田) 木島平村	ななきはな 菜の花2期	生産基盤の整備により、特徴ある農産物栽培の振興を図るとともに、生活環境の整備を通して、自然と生活文化の調和の取れた住みやすい地域づくり、グリーンツーリズムによる「農業体験のできる滞在型の観光地」を目指し、地域の活性化を図る。	農業用排水 L=12,582m 農道 L=13,014m 農業集落道 L=2,931m 農村公園 A=25,000m <sup>2</sup>	H11~H17	2,310,000	1.27	A	B	A	A	B	①農道、水路の整備により、農作業や生活面での安全性、利便性が向上した。 ②希少種の保護に対する意識が向上した。 ③地元農家や区、第3セクターにより適切に雑管理がなされている。 ④農道、水路の整備や農村公園などの環境整備により利便性や生活環境の向上に評価を得ている。 ⑤農村公園の施設整備等により隣接する直売所等の消費拡大につながっている。	○地域代表者からの聴き取り結果から、本事業の必要性については高く評価されており、継続した事業実施が望まれている。 ○地理・地形的条件が厳しい中山間地域の農業農村の維持と活性化を図るためには、農業生産基盤と生活環境基盤の総合的な整備が不可欠であり、今後も中山間地域における総合整備の取り組みを継続的に実施していく必要がある。 ○また今後は多面的機能支払事業等を活用した施設の継続的な維持管理も期待される。	農地整備課
					農業用排水 L=14,299m 農道 L=11,616m 農業集落道 L=2,579m 農村公園 A=24,200m <sup>2</sup>	H11~H21	1,845,000	1.12								